

産業振興、町勢発展に尽力



町長室で叙勲の伝達を受ける脇中さん

産業の振興や文化、福祉の向上、町勢の発展に尽力された火ノ浦の脇中彦徳さん（88）が高齢者叙勲として旭日単光章を受賞され、1月22日、町長室で伝

達式がありました。

脇中さんは、東長島村と東町で通算6期24年の永きにわたり議会議員として在職。昭和57年9月から昭和61年9月までの4年間、東町収入役を歴任されました。

町議会議員としては、東町議会文教民生委員会委員長、同議会建設委員会委員長などの要職を務められ、円滑な議会運営に努力されるとともに、勤勉にして実行力に富むその性格を遺憾なく発揮されました。

収入役としては、その卓越した識見と豊富な経験をもって、町長を補佐し、財政管理をはじめ過疎化に悩む東町の町勢発展と町財政の基盤の確立に貢献されました。

今回の受章は、これらの功績が顕著であると認められたものです。伝達式では、息子の清徳さんが立ち会うなか、川添健町長から脇中さんに勲章と勲記が手渡されました。

向江さん100歳のお祝い



娘の禮子さんの手拍子に合わせて三味線を弾く向江さん

広野の向江ミツさんが100歳を迎えられ、1月23日、町からお祝いが贈られました。同日は、川添健町長と町職員が向江さんの自宅を訪問し、川添町長から向江さんにお祝い状と記念品が手渡されました。

明治40年1月23日生まれの向江さんは、狂言一座の座長だった夫の直之さん（92）と同様、浪曲の三味線弾きとして全国を飛び回っていたそうです。

着物を身に着け、凛とした姿勢でお祝いを受け取った向江さんは「ありがとうございます」としっかりと口調でお礼を述べられ、直之さんとの思い出話に花を咲かせていました。

久しぶりに三味線を手にした向江さん。その表情はキリリと引き締まり、プロの曲師に戻っていました。